

林英輔先生とインターネット創世記

後藤 滋樹
早稲田大学理工学術院 教授

林英輔先生は、JPNIC（日本ネットワークインフォメーションセンター¹）の理事を1998年から2002年までの2期に渡って務められました。1997年のJPNICの発足当時は、インターネットの創世記であり、学術系のネットワークがインターネットの中心でした。現在のインターネットでは、商用で運用している事業者の数の方が圧倒的に多いのですが、当初は、商用で利用しているのは2社ほどでした。学術系、あるいは非営利の研究機関の方々がインターネットを作ってきたのであり、林先生のご尽力のおかげで今日のインターネットの発展があります。

また、林先生は小中高校を接続する100校プロジェクトに非常に深く関わられました。当時私は、NTTに所属しており、川崎の工業高校の支援をTRAINの先生と一緒に取り組むなどの活動をしていました。林先生は4つの委員会に参加され、その内の2つの委員会の主査を務めていました。当時の通産省主導で始まった、初等中等教育機関をインターネットに接続する取り組みは、その後文部科学省により、教育委員会、教育センターにより全国の学校に広がっていきました。

私自身も学校を訪問したことがあります。父兄がチューリップの花壇を作るつもりで集めたお金をインターネット接続に回してくれた学校の話の伺いました。私は1996年に早稲田大学に移ってから、100校プロジェクトの支援を続けるため、大学にIT・教育研究所を作りました。小中高や教育委員会等のインターネットや情報化に熱心な先生や、支援をしてくれる企業の相談窓口となる組織でした。

現実には、全国の小中学校の数は4万校近くあり、情報化に熱心な先生に対して支援するだけでは、不十分だということに気づきました。

日本では、大学の教職課程で教職の資格を取得し、卒業して先生になりますが、アメリカでは教職ではない分野を学んで大学を卒業した人が、別の大学で教職の資格（クレデンシャル）を取ることも多いのです。教職課程

というのは、教えるための実務的な教育であり、教育心理など専門分野を部分的に分離して、大学以外でも多様な学べる場があるべきだと我々も考えました。

このような検討から発展した活動があります。人材育成と教育サービスに関わる標準化はヨーロッパから取り組みが拡がり、日本でも、2007年12月に一般社団法人 人材育成と教育サービス協議会²（JAMOTE）が、ISO/TC232の業務を担う国内審議団体として日本工業標準化委員会³（JISC）によって承認されました。そして、2010年にはISO 29990⁴が承認、発行され、非公式教育・訓練における学習サービスに対する標準化が行われることとなりました。

林先生が始められた学校教育における情報化を我々が引き継いだつもりで、繋いできた取組みについてご紹介しました。

早稲田大学 IT・教育研究所

<p>研究所という名前がある←学科と教授の名前 公的プロジェクトにおける実績の積み重ね IT・教育研究所 学会の事務局のような団体の事務局のような活動</p> <ul style="list-style-type: none">・ JERIC インフォメーション デスク・ IT教育研究所 2000年12月から 2005年11月まで・ IT教育研究所 2005年12月から (2006.6移籍, 2010年9月まで)・ IT・教育研究所 2010年10月から 2014年3月まで	<p>100校プロジェクト 1994年に当時の通産省が 全国の小中高校100校をイン ターネットに接続するプロジェ クトを開始</p> <p>ACPA 実務能力認定機構 2003年に設立</p> <p>JAMOTE 人材育成と教育サービス協議会 2007年12月にISO/TC232の 国内審議団体として日本工業 標準化委員会(JISC)に承認</p>
--	---

図1 早稲田大学 IT・教育研究所

参考)

- ・ 100校プロジェクト
<http://www.cec.or.jp/es/100school/ayumi/>
<http://www.cec.or.jp/e2a/e2/100kou.html>
[http://www.cec.or.jp/es/E-square/
100houkoku/index.htm](http://www.cec.or.jp/es/E-square/100houkoku/index.htm)

2 <http://www.jamote.jp/>
3 <http://www.jisc.go.jp/index.html>
4 <http://www.jamote.jp/iso/>

1 <https://www.nic.ad.jp/ja/>